

機関番号：32633
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20791682
 研究課題名(和文)慢性期脳血管障害患者の寝たきりを防ぐ背面開放座位ケアプログラムの開発
 研究課題名(英文)Developing a Care Program Using a Sitting Position Without Back Support to Prevent Chronic Stroke Patients from Becoming Bedridden
 研究代表者
 大久保 暢子(OKUBO NOBUKO)
 聖路加看護大学・看護学部・准教授
 研究者番号：20327977

研究成果の概要(和文): 慢性期脳血管障害患者の寝たきり防止として、背面開放座位ケアプログラムを開発した。背面開放座位とは、足を床に付け背中を開放し首を自力保持する姿勢で、プログラムには、この座位を取るために必要な関節可動域運動や筋力訓練等を含めた。本プログラムを臨床活用できるように、ホームページや簡単にケア出来るための保持具や冊子作成を行い、患者への効果検証も行った。離床時間の延長、家族の介護意欲の向上等の効果が得られた。

研究成果の概要(英文): A care program using a sitting position without back support was developed as a way to prevent chronic stroke patients from becoming bedridden. A sitting position without back support refers to an open-back position where the patient's feet are placed on the floor and the patient exercises autonomous neck control. This program included exercises necessary for assuming a sitting position, such as muscle training and activities for range of joint motion. In addition, a homepage, a pamphlet, and a support tool to facilitate care were created for the purpose of clinical application of this program. A verification of patient outcomes was also conducted. This program yielded results that included lengthening the amount of time the patients got out of bed and an increase in the family's desire for nursing care.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：慢性期，脳血管障害，寝たきり，背面開放座位，看護プログラム，
“起きる”看護ケアプログラム，廃用症候群

1．研究開始当初の背景

遷延性意識障害患者に対する背面開放座位の研究を続けてきた研究者は、それが同患者の廃用症候群防止に繋がるというエビデンスを確立しつつある。しかしそれを導入できる患者の状態の判断基準、詳細な手順、座位前・中・後の観察点などが不明確で臨床での普及は一部に留まっている。

2．研究の目的

本研究は、臨床での普及、実用化に向けて、背面開放座位の基準の明示、手順の統一、観察点の提示などを含めた背面開放座位ケアプログラムの開発を目的としている。

背面開放座位を既に導入している臨床現場において、困難や問題点の現状調査を行い、その結果と、先行研究や文献検討の内容を統合し、ケアプログラムを作成する。専門職者からの助言でプログラムを修正、さらに準実験研究を行うことで評価し、プログラム開発とする。

3．研究の方法

以下の(1)～(3)を行った。

- (1)背面開放座位の技術に関する現状調査
- (2)プログラムの作成と修正
- (3)プログラム導入前後の評価

4．研究成果

作成した背面開放座位ケアプログラム（技術や判断基準などを記した冊子と書籍となった説明本、および背面開放座位保持具(Sittan)を使って、2 医療施設の脳神経外科病棟 2 病棟で効果検証を行った。結果、対象患者計 10 名において表情変化、頸部自力保持等の効果があり、更に離床時間の延長、家族との面

会時間延長の効果が得られた。また患者の家族は、本プログラムを受け入れ、本プログラムを通じて、患者の身体的状況を理解し、家族自身が出来ることは何か模索する態度に繋がった。最終的には、起きることの重要性を家族が認識し、本プログラム提供メンバーとして参与することで介護意欲を高める結果となった。

本プログラムの効果としては、計 10 例の患者データの結果となったことから、効果として価値づけるにはデータ数の少なさがあると考えられる。加えて、家族にも良い影響があったことが不随の効果として認められたことから、今後は、家族への効果も測定し、データ数を増やす必要がある。

上記の結果の一方で、本プログラムを導入した医療施設の中で、幾つかの施設が導入を中断しており、効果が検証されているにも関わらず、同プログラムの普及には未だ課題が多いことが分かった。今後は、本プログラムの効果検証のデータを増やすと共に、医療施設への普及対策を考える研究に取り組むことが課題と考える。

5．主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 13 件)

牛山杏子、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第 11 回 リハビリ病院が支える（重症脳血管障害患者）Nursing Today、査読無、26(2)、2011、12-15
寺田麻子、関戸あゆみ、蛭沼恵美、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第 10 回 急性期病院が支える（軽症脳血管障害患者）Nursing Today、査読無、26(1)、

2011、12-15

石本政恵、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第9回 急性期病院が支える（重症脳血管障害患者）Nursing Today、査読無、25(14)、2010、50-53

桐原絵理、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第8回“起きる”看護ケアプログラムが家族に与える影響、Nursing Today、査読無、25(13)、2010、46-48

園尾義之、廣瀬和子、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第7回 デザイナーとメーカーが支える、Nursing Today、査読無、25(12)、2010、47-50

阿部浩明、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第6回 理学療法士が支える、Nursing Today、査読無、25(10)、2010、45-48

米田千賀子、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第5回 リハビリテーション医が支える、Nursing Today、査読無、25(9)、2010、47-49

森田功、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第4回 主治医が支える、Nursing Today、査読無、25(8)、2010、46-48

古川優子、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第3回 病棟看護師が支える（スペシャリスト）Nursing Today、査読無、25(7)、2010、48-50

中村佳世、大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第2回 病棟看護師が支える（ジェネラリスト）Nursing Today、査読無、25(6)、2010、47-49

品地智子、飯野智恵子、江口隆子、能條多恵子、城美奈子、菱沼典子、大久保暢子、急性期脳血管障害患者に対する“からだを起こす”看護ケアプログラムの構築、日本看護技術学会誌、査読有、9巻1号、2010、69-82

宇佐見希子、大久保暢子、遠山香織、石山光枝、頭部外傷による遷延性意識障害患者に対する背面開放座位の効果、日本脳神経看護研究学会誌、査読有、32巻2号、2010、125-133

大久保暢子、“起きる”をチームで支えよう！第1回 患者が“起きる”意味とそれを支えるチーム、Nursing Today、査読無、25(5)、2010、47-50

〔学会発表〕(計 3 件)

中村佳世、古川優子、土川美香、大久保暢子、DCS 療法を受けた意識障害患者への看護ケア～背面開放座位を導入した一事例～、第19回日本意識障害学会、2010年7

月23日、下関

秋葉智子、岸部友美、小嶋昌子、大久保暢子、頸部保持が可能になった遷延性意識障害患者の事例-背面開放座位との関連-、第19回意識障害学会、2010年7月23日、下関

大久保暢子、背面開放座位を取り入れた“起きる”看護ケアプログラムの紹介、第8回日本看護技術学会学術集会、2009年9月27日、旭川

〔図書〕(計 1 件)

大久保暢子、日本看護協会出版会、ナーシングトゥデイ 特集 脳卒中看護から学ぶ“起きる”看護ケアプログラム、ナーシングトゥデイ、24巻11号、2009、19-49

〔産業財産権〕

出願状況(計 3 件)

名称：特許権

発明者：大久保暢子

権利者：木村恭介

種類：特許権

番号：特願 2009-171583

出願年月日：2010年1月22日

国内外の別：国内

名称：意匠権

発明者：大久保暢子

権利者：木村恭介

種類：意匠権

番号：意願 2009-015928

出願年月日：2009年7月13日

国内外の別：国内

名称：商標権

発明者：大久保暢子

権利者：パラマウントベッド(株)

種類：商標権

番号：商願 2009-064558

出願年月日：2009年8月24日

国内外の別：国内

取得状況(計 2 件)

名称：商標権

発明者：大久保暢子

権利者：パラマウントベッド(株)

種類：商標権

番号：商願 2009-064558

取得年月日：2011年2月25日

国内外の別：国内

名称：意匠権
発明者：大久保暢子
権利者：木村恭介
種類：意匠権
番号：意願 2009-015928
取得年月日：2010年3月26日
国内外の別：国内

〔その他〕

ホームページ等

http://www.kango-net.jp/project/14/14_2/p14_05.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大久保 暢子 (OKUBO NOBUKO)

聖路加看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：20327977